

8:11 パリサイ人たちがやって来て、イエスに議論をしかけ、天からのしるしを求めた。イエスをためそうとしたのである。 8:12 イエスは、心の中で深く嘆息して、こう言われた。「なぜ、今の時代はしるしを求めるのか。まことに、あなたがたに告げます。今の時代には、しるしは絶対に与えられません。」 8:13 イエスは彼らを離れて、また舟に乗って向こう岸へ行かれた。 8:14 弟子たちは、パンを持って来るのを忘れ、舟の中には、パンがただ一つしかなかった。 8:15 そのとき、イエスは彼らに命じて言われた。「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とに十分気をつけなさい。」 8:16 そこで弟子たちは、パンを持っていないということで、互いに議論し始めた。 8:17 それに気づいてイエスは言われた。「なぜ、パンがないとって議論しているのですか。まだわからないのですか、悟らないのですか。心が堅く閉じているのですか。 8:18 目がありながら見えないのですか。耳がありながら聞こえないのですか。あなたがたは、覚えていないのですか。 8:19 わたしが五千人に五つのパンを裂いて上げたとき、パン切れを取り集めて、幾つのかごがいっぱいになりましたか。」彼らは答えた。「十二です。」 8:20 「四千人に七つのパンを裂いて上げたときは、パン切れを取り集めて幾つのかごがいっぱいになりましたか。」彼らは答えた。「七つです。」 8:21 イエスは言われた。「まだ悟らないのですか。」 8:22 彼らはベツサイダに着いた。すると人々が盲人を連れて来て、彼にさわってくださるよう、イエスに願った。 8:23 イエスは盲人の手を取って村の外に連れて行かれた。そしてその両目につばきをつけ、両手を彼に当てて「何か見えるか」と聞かれた。 8:24 すると彼は、見えるようになって、「人が見えます。木のようですが、歩いているのが見えます」と言った。 8:25 それから、イエスはもう一度彼の両目に両手を当てられた。そして、彼が見つめていると、すっかり直り、すべてのものがはっきり見えるようになった。 8:26 そこでイエスは、彼を家に帰し、「村に入って行かないように」と言われた。 8:27 それから、イエスは弟子たちとピリポ・カイザリヤの村々へ出かけられた。その途中、イエスは弟子たちに尋ねて言われた。「人々はわたしをだれだと言っていますか。」 8:28 彼らは答えて言った。「バプテスマのヨハネだと言っています。エリヤだと言う人も、また預言者のひとりだと言う人もいます。」 8:29 するとイエスは、彼らに尋ねられた。「では、あなたがたは、わたしをだれだと言っていますか。」ペテロが答えてイエスに言った。「あなたは、キリストです。」 8:30 するとイエスは、自分のことをだれにも言わないようにと、彼らを戒められた。

導入

先月のマルコの福音書のメッセージでは、悪霊に取りつかれた娘のいる異邦人の女についてお話ししました。

イエスは最初、この女の願いを聞かれませんでした。最終的には、女の信仰に報いて、娘から悪霊を追い出してくださいました。

この奇跡を行われた後、イエスは耳の不自由な人を癒し、7つのパンと数匹の魚で4千人に食事を与えられました。

これら一連の奇跡を行われた後、イエスは弟子たちと舟に乗って、ダルマヌタという地方に行かれました。

今日のお話はここから始まります。

イエスが行かれた地方があった位置ははっきりと特定されていません。しかし、ガリラヤ湖の西岸のどこかです。

イエスが湖の向こう岸に着くと、そこにはパリサイ派の人々が待ち構えていました。

新約聖書を読むと、イエスが群衆の想像を掻き立てるような奇跡を起こされると、必ずと言ってよいほどパリサイ派の者が人々に疑念を抱かせようと出てきます。

パリサイ派の人々は、次々に挑戦を挑んできました。

この場合、パリサイ派の人々は、天からのしるしを求めました。

イエスはこの求めには応じず、再び舟に乗って、向こう岸に渡られました。

ここで、重要な問いについて考えなければなりません。

その問いとは、次のとおりです。なぜイエスは、天からのしるしというパリサイ派の人々の要求に応じられなかったのでしょうか。

イエスは人のかたちをした神であられるので、パリサイ派の人々が求めたものを与えることがおできになりました。

1. 「しるし」を求めることは、「信仰のしるし」ではない。(11-12 節)

まず理解しておかなければならないことは、パリサイ派の人々の質問には、イエスが神であることに対する挑戦が秘められていたということです。

マルコの福音書のこれまでの個所で、パリサイ派の人々は、イエスが人の罪を赦したことについて、神への冒瀆だと糾弾しました。

マルコ 2: 5-7

2:5 イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。あなたの罪は赦されました」と言われた。

2:6 ところが、その場に律法学者が数人すわっていて、心の中で理屈を言った。2:7 「この人は、なぜ、あんなことを言うのか。神をけがしているのだ。神おひとりのほか、だれが罪を赦すことができよう。」

また、イエスがサタンの力によって奇跡を起こしているとも言いました。

マルコ 3: 22

3:22 また、エルサレムから下って来た律法学者たちも、「彼は、ベルゼブルに取りつかれている」と言い、「悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出しているのだ」とも言った。

ですから、イエスはパリサイ派の人々の考えをご存じでした。

次に、今回のパリサイ派の人々との一件について、もう少し詳しく状況を知るために、マタイの福音書を読みましょう。

マタイ 16: 1-4.

16:1 パリサイ人やサドカイ人たちがみそばに寄って来て、イエスをためそうとして、天からのしるしを見せてくださいと頼んだ。16:2 しかし、イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがたは、夕方には、『夕焼けだから晴れる』と言うし、16:3 朝には、『朝焼けでどんよりしているから、きょうは荒れ模様だ』と言う。そんなによく、空模様の見分け方を知っていながら、なぜ時のしるしを見分けることができないのですか。16:4 悪い、姦淫の時代はしるしを求めています。しかし、ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられません。」そう言って、イエスは彼らを残して去って行かれた。

マタイは、パリサイ派の人々が霊的に盲目であると指摘し、私たちの理解を深めてくれます。彼らは、空模様から天気の兆候を読み取るのに、イエスの奇跡から霊的なしるしを読み取る力がありませんでした。

イエスは地上で奇跡を起こされましたが、奇跡を起こすこと自体が目的ではないということを、私たちは理解しなければなりません。

イエスが行われた奇跡は、イエスが神であることを指し示すための天からのしるしなのです。ですから、イエスがパリサイ派の人々の求めに応じてしまったなら、イエスに関する預言の成就を阻害することになります。

旧約聖書の預言者たちは、あらゆる奇跡を起こす救い主がやがて来ることを示しました。

イザヤは、来たるべき救い主が盲人の目を開き、耳の聞こえず口のきけない人を癒すと語ります。(イザヤ 35 : 5-6)

今日の個所で、イエスは耳の不自由な人を癒すという奇跡を起こされたばかりでした。

イエスは、パリサイ派の人々がイエスに関する神のみことばを信じることを望んでおられました。もしイエスがパリサイ派の人々を納得させるために奇跡を起こせば、それは、イエスに関する神のみことばを信じる必要性を無にしてしまうことになります。

イエスがパリサイ派の人々の要求に応じられなかったもうひとつの理由は、当時、サタンの力による奇跡を行う「偽預言者たち」がいたからです。

イエスは、そのような人々と同一視されることを望まれませんでした。

申命記 13: 1-5.

13:1 あなたがたのうちに預言者または夢見る者が現れ、あなたに何かのしるしや不思議を示し、
13:2 あなたに告げたそのしるしと不思議が実現して、「さあ、あなたが知らなかったほかの神々に従い、これに仕えよう」と言っても、**13:3** その預言者、夢見る者のことばに従ってはならない。あなたがたの神、【主】は、あなたがたが心を尽くし、精神を尽くして、ほんとうに、あなたがたの神、【主】を愛するかどうかを知るために、あなたがたを試みておられるからである。**13:4** あなたがたの神、【主】に従って歩み、主を恐れなければならない。主の命令を守り、御声に聞き従い、主に仕え、主にすがらなければならない。**13:5** その預言者、あるいは、夢見る者は殺されなければならない。その者は、あなたがたをエジプトの国から連れ出し、奴隷の家から贖い出された、あなたがたの神、【主】に、あなたがたを反逆させようとそそのかし、あなたの神、【主】があなたに歩めと命じた道から、あなたを迷い出させようとするからである。あなたがたのうちからこの悪を除き去りなさい。

もしイエスがパリサイ派の人々の要求に応じてしまっていたら、今度は律法学者たちが出てきてイエスを裁いたかもしれません。律法学者たちはユダヤの律法の専門家ですから、この個所を使ってイエスを攻撃したかもしれません。

パリサイ派の人々からの単純なお願いに見えたものは、実はサタンの誘惑でした。

サタンは、イエスが罨にはまって、イエスの地上の働きに傷がつくことを望んでいました。

マタイの福音書では、この時代に与えられるのは、預言者ヨナのしるしだけだとあります。これは、興味深いことばです。

このしるしについて理解するためには、旧約聖書のヨナの話を理解しなければなりません。

ヨナは、神の言いつけに逆らって逃げました。

彼は、ヨッパの港から、タルシシュに行く船に乗り込みました。

船はひどい嵐に遭い、転覆の危険にさらされました。そうなれば、全員おぼれ死にます。

船員たちは、ヨナが神から逃げていることを知りました。

ヨナは、自分を海に投げ込めば、海がしずまって彼らは助かると船員たちに告げました。

船員たちは躊躇しましたが、結局、ヨナを海へと放り込みました。

ヨナは大きな魚に飲み込まれ、その腹の中に三日三晩いました。

その後、神は魚がヨナを地上に吐き出すようになさいました。

ヨナはようやく、神の召しに従い、ニネベの町で神のことばを告げました。

ニネベの人々が罪を悔い改めたので、神はニネベの町にもたらそうとなさっていた災いを思いなおされました。

ここから明らかなのは、パリサイ派の人々が得る唯一のしるしは、イエスの死と復活です。

それがパリサイ派の人々にとってイエスを信じる最後のチャンスとなります。

この個所から、私たちは何を学べるでしょうか。

かれこれ 30 年ほど前、ハーマン・カーンという未来学者が、「世界経済発展の未来」という本を出しました。この副題は、「2000 年以降の展望」です。

この本の中で、未来の宗教は、霊的高揚感や恍惚感といったものにあふれると予想しています。彼がこのような見解を示した理由は、脱工業化社会のハイテク技術によって、人は人間性を奪われると感じる傾向にあるからです。

そこで、カーンの考えでは、宗教がその正反対の役割を果たし、あっと驚くようなしるしによって人間性を強調するというのです。

ここから導き出される結論は、自分の「宗教」がしるしを多く必要とするなら、そこに「信仰」は要求されないということです。

私たちがここ OIC で伝える「福音」は、神のみことばである聖書を信じる信仰を要求します。

クリスチャンになることは、目に見える奇跡を土台とするものではありません。

神の御子であるイエスが天から地上に来て、私たちの罪のために十字架上で身代わりの死を遂げてください、これこそが土台となる奇跡です。

これが、イエスのおっしゃったヨナのしるしです。

ですから、イエスを信じてクリスチャンになるには、奇跡を見なくてもイエスを信じなければなりません。

目に見える奇跡が何もないのに、信仰によって私たちがイエスを信じるなら、それが最大の奇跡です。

先月の学びで、異邦人の女の信仰にイエスが報いてくださいました。

私たちも同じです。イエスが私たちを愛してご自身をささげてくださった神の子だと信じるなら、神はその信仰に報いてくださいます。

2. イエスは、パリサイ人のパン種とヘロデのパン種について弟子たちに警告なさる。 **(13-21 節)**

イエスは湖の向こう岸に向かわれました。弟子たちは、パンを持ってくるのを忘れていました。

この状況をイエスは用いて、弟子たちに霊的な真理を教える機会とされました。

では、イエスが弟子たちに教えようとなされた霊的真理とは何でしょう。

ポイントとなる聖句は、15 節です。

8:15 そのとき、イエスは彼らに命じて言われた。「パリサイ人のパン種とヘロデのパン種とに十分気をつけなさい。」

まず、「パン種」が何か、それとパリサイ人とヘロデの関わりは何かを理解する必要があります。パン種、つまりイースト菌とは、発酵を促すものです。

パン生地がよく膨らんだパンになるようにするものです。

しかし、イーストは単細胞性の菌類に過ぎません。

では、どのようにして働くのでしょうか。

イーストは糖を分解します。そのときに、炭酸ガスとアルコールが発生します。

重要なことは、イーストがパンを膨らますために必要なエネルギー源となるのです。

イーストがなければ、パンは作れません。

では、パリサイ人やヘロデの言動の陰にあるエネルギー源は何でしょう。

それは、人間の罪の性質です。

私たちは皆、この性質を生まれ持っています。それは、私たちの先祖であるアダムとエバの不従順が原因です。

パリサイ人は、罪の性質に動かされ、律法的な宗教を作りました。

それは、律法に基づく宗教でした。イエス・キリストによる神の恵みを土台とはしていませんでした。

人間の罪の性質を満足させるために、罪の性質によって生み出された宗教でした。

そのような異端や宗教は、世界中にたくさんあります。

それらの宗教は、先ほども言ったように、罪の性質によって生み出され、人間の罪の性質を満足させるような内容に作られています。

しかし、罪の赦しや私たちの創造主であり所有者であるお方との交わりといった人間の心の奥底にあるニーズを満たすことは決してできません。

ヘロデは、罪の性質によって、権威や権力、そして欲望へと走りまわりました。自分の権力を脅かす者は誰でも殺すような人物です。

現在の北朝鮮の指導者も同じです。

ですから、パリサイ人とヘロデ王のつながりは、人間の罪の性質です。

この罪の性質が原因で、私たちは、神を無視して自分を満足させようとしてしまうのです。罪の性質は、自分のしたいこと、自分の気持ちなど、自分のことしか考えません。

残念ながら、このとき弟子たちは、イエスが教えようとなさったことを理解できませんでした。弟子たちは、イエスが食べるパンのことをおっしゃっていると思いました。パンを持ってくるのを忘れたからです。

イエスは、彼らが食べるパンに気を取られていることに気づき、弟子たちは目も耳もあるが、イエスの教えの霊的な意味がわからないとおっしゃいました。

それでイエスは、多くの人々にパンを与えられたふたつの奇跡を振り返って、弟子たちに思い起こすように促されました。

イエスは、それぞれの奇跡の際に、いくつかのかごのパンが残っていたか弟子たちが覚えているかと尋ねられました。

なぜそのようなことをなさったのでしょうか。

その答えは、ヨハネの福音書で5千人の給食の奇跡についてイエスが教えておられる個所にあると思います。

ヨハネ 6: 26-40

6:26 イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです。 **6:27** なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。それこそ、人の子があなたがたに与えるものです。この人の子を父すなわち神が認証されたからです。」 **6:28** すると彼らはイエスに言った。「私たちは、神のわざを行うために、何をすべきでしょうか。」 **6:29** イエスは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。」 **6:30** そこで彼らはイエスに言った。「それでは、私たちが見てあなたを信じるために、しるしとして何をしてくださいますか。どのようなことをなさいますか。 **6:31** 私たちの父祖たちは荒野でマナを食べました。『彼は彼らに天からパンを与えて食べさせた』と書いてあるとおりです。」 **6:32** イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。モーセはあなたがたに天からのパンを与えたのではありません。しかし、わたしの父は、あなたがたに天からまことのパンをお与えになります。 **6:33** というのは、神のパンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものだからです。」 **6:34** そこで彼らはイエスに言った。「主よ。いつもそのパンを私たちにお与えください。」 **6:35** イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渇くことはありません。 **6:36** しかし、あなたがたはわたしを見ながら信じようとしないと、わたしはあなたがたに言いました。 **6:37** 父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに来ます。そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません。 **6:38** わたしが天から下って来たのは、自分のところを行うためではなく、わたしを遣わした方のみこころを行うためです。 **6:39** わたしを遣わした方のみこころは、わたしに与えてくださったすべての者を、わたしがひとりも失うことなく、ひとりひとりを終わりの日によみがえらせることです。 **6:40** 事実、わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つことです。わたしはその人たちをひとりひとり終わりの日によみがえらせます。」

イエスがここで言うておられるのは、イエスを信じるのが人生で一番大切であるということです。それは、食べる食物よりも大切なのです。

3. ベツサイダで目の見えない人が癒される。(22-26 節)

これは、マルコの福音書にしか記録されていないふたつの奇跡のうちのひとつです。

もうひとつは、マルコ 7 : 31-37 に記されていた耳の聞こえない人の癒しです。これについては、先月学びました。

どちらの奇跡も、イエスはその本人を群衆から連れ出されました。

奇跡を見世物にすることを望まれなかったからです。

この奇跡についてももうひとつ注目すべき点は、四福音書の中で、癒しの奇跡が徐々に起こる唯一の記録だということです。

イエスの他の奇跡はすべて、即座に起こりました。
これらの奇跡を記録したのは、おそらくイザヤの預言と関連付けるためと思われます。

イザヤ 35: 5.

35:5 そのとき、目の見えない者の目は開き、耳の聞こえない者の耳はあく。

マルコは、人がこの福音書を読んで、イエスこそ旧約聖書の預言者たちが預言した救い主であると信じるようになることを目指していました。

この目の見えない男の人の癒しに段階があることには、特段大きな意味はないと思います。けれども、ひとつ重要な点は、イエスが弟子たちに、目があっても見えないとおっしゃったところだったことです。

目の見えない人は、見えるようにしてくださるイエスの癒しに頼るしかありませんでした。同じように、私たちも、霊的に癒されて霊的な目を開かれるためには、イエスに頼るしかありません。クリスチャンになると、前にはわからなかったことが急に見えるようになります。

イエス・キリストが罪から救ってくださる救い主だと信じる前にはなかったような次元の理解や考え方が与えられます。

この奇跡の盲目の人のように、私たちも、聖書をとおして神が示してくださることがどんどん見えるようになります。

イエスがおっしゃったとおりです。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」（ヨハネ 8 : 12）

ですから、光のあるところにいつづけたいと思うなら、イエスについていかなければなりません。

4. ペテロがイエスをキリストだと告白する。(27-30 節)

イエスがピリポ・カイザリヤに行かれる途上、弟子たちにあるとても大切な質問をなさいました。それは、「人々はわたしをだれだと言っていますか。」というものでした。

弟子たちは、人がイエスについて考えていることをイエスに伝えました。

「バプテスマのヨハネだと言っています。エリヤだと言う人も、また預言者のひとりだと言う人もいます。」

イエスは実際には、イエスが何者かということに関する大衆の考えに興味は持っておられませんでしたが、しかし、弟子たちがイエスを誰だと思っているかには大きな関心を持っておられました。ペテロの答えは、ここだけに記録されています。

彼は、「あなたは、キリストです。」と答えました。

ペテロがこう言うと、イエスは弟子たちに、イエスの正体について秘密にしておくようにとおっしゃいました。

では、ペテロの告白の重要性について考えましょう。

まず、マルコ 1 : 1 を読みましょう。

1:1 神の子イエス・キリストの福音のはじめ。

この個所で、マルコは、福音書を書いた目的を宣言しています。

この時まで、弟子たちはイエスの本当の正体は知りませんでした。

しかし、弟子たちはイエスの癒しの奇跡などは目撃していました。

ペテロのしゅうとめが癒され、重い皮膚病患者が癒され、悪霊に取りつかれた人はイエスに悪霊を追い出していただき、目や耳の不自由な人も癒されました。

これらの奇跡は、来たる救い主についての預言と合致します。

それ以外にも、風や波もイエスの声に従いました。

イエスが弟子たちと過ごした期間、イエスが誰であるかに関する証拠が弟子たちに明かされてきました。

そして、彼らはずいに理解したのです。

おそらく、ペテロが最初に悟ったのでしょう。

突如として、弟子たちは、イエスが人のかたちをした神であることを悟りました。

聖書の神は三位一体のお方です。つまり、ひとりの神ですが、3つのかたちを取られるということです。

父なる神。(ローマ 1:7)

子なる神。(ヘブル 1:8)

そして、聖霊なる神。(使徒 5:3-4)

この真理は、イエスの洗礼の場面で明らかにされています。

マタイ 3:16-17.

3:16 こうして、イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると、天が開け、神の御霊が鳩のように下って、自分の上に来られるのをご覧になった。**3:17** また、天からこう告げる声が聞こえた。「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」

この個所で、父なる神は天から語られます。子なる神は洗礼を受けておられます。そして、聖霊なる神は、鳩のように下ってこられます。

「三位一体」についてよくわからないかもしれませんが、これを信じる必要があります。新約聖書には明らかに提示されており、旧約聖書でも暗示されているからです。

最後に、私たちの救いについて明らかにしておかなくてはなりません。

今日、私たちは聖餐式に与ります。

これは、感謝をささげる礼拝です。私たちの罪の罰を負って、十字架上で死んでくださったことで成されたイエスの御業を感謝するためのものです。

聖餐式に参加することは、イエスが誰であるかを理解し、イエスが私たちひとりひとりのために成してくださったことも理解したということです。

イエスに罪を告白し、罪の赦しを求めた人は、聖餐式の重要性についても目が開かれているはずです。

では、まず祈って、聖餐式に与りましょう。